

(2020年度分)

<p>団体名</p>	<p>NPO法人 国際ボランティア学生協会</p>		

日本では2004年から市民によるAEDの使用が法的に許可され、今年で17年目になります。普及率を向上させるため、全国の教育機関で献身的に講習会が実施されたことにより、AEDの正しい使用方法を認知している割合は10代が最も高く、30代が最も低いです。大学生を中心とした将来を担う若者たちに、AEDの使用方法を繰り返し学んでもらうことで、「AEDの使い方を知っている」から「AEDを使える」へ意識を変えていくことが重要だと考えております。

また、本協会は、約2,300名の学生が所属するボランティア団体であり、災害救援、国際協力、地域活性化、環境保全、子どもの教育支援事業の5つの分野を柱に、国内外で活動しております。ボランティア活動という非日常の場面だけではなく、日常生活においても助けを求めている人に遭遇した時に、一人でも多くの学生に「大丈夫ですか？」と声をかける勇気を持ってもらいたい。それは、本協会の掲げるビジョンである「共に生きる社会」の実現に向けて、互いの命を守る社会を目指していく上で必要なことだと考えております。応急救命講習はその理念のもと行っております。

コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで講習を行いました。基礎講習では自分たちの身の回りで起こる可能性のあるリスク(ケガ、熱中症、アナフィラキシーショック、感染症など)への対応を学びました。訓練器を参加者全員に配布することが困難だったため、CPRは動画を視聴し、胸骨圧迫の訓練はペットボトルで代用。

1年間で896名(新規494名)の大学生が講習を受講しました。オンラインでの講習は初の試みでしたが、動画を活用や、パワーポイントを使って胸骨圧迫の姿勢を分かりやすく伝えるように工夫し、訓練器を触ることができないデメリットを出来るだけ補える環境を整えて講習を実施することができました。